

# 土木學會選奨土木遺産

きゅうすばなずいどう

## 旧須花隧道

### 平成21年度認定

- 所在地：栃木県佐野市～足利市
- 竣工年：〔初代〕1889（明治22）年  
〔二代目〕1917（大正6）年
- 構造形式等：〔初代〕素掘り 117m  
〔二代目〕煉瓦造（側壁：イギリス積、アーチ部：長手積）  
石ポータル（地元産御影石）、81.9m
- 管理者：〔初代〕地権者、佐野市史跡  
（平成6年に旧田沼町が指定）  
〔二代目〕栃木県

位置図



写真①

二代目隧道は、大正6年に栃木県が煉瓦巻隧道として築造した。側壁はイギリス積・アーチ部は長手積で組成されており、組成文様を彩るグラデーションは積み重ねられた歳月の長さを物語っている（写真③）。また、昭和54年にRC造の現道が竣工し、初代・二代目の隧道は現在使用されていない。

栃木県佐野市と足利市とを結ぶ一般県道飛駒足利線の須花坂に、3本の隧道が並んで位置している。

初代隧道は地元の有志らが寄付金を募り明治14年に着工し、竣工まで8年の歳月を要したが、最後まで残ったのは田島茂平ただ一人であった。工事は人力だけで行われ、内部にはその痕跡が残っている（写真①、②）。



写真②



写真③

これらの隧道は、明治・大正・昭和とそれぞれ時代を隔てて築造されたものであり、隧道の構造仕様の流れを知る上で貴重である。

初代の隧道は、地域開発に身を投じた先人の偉業を後世に伝えるなど地域史学習の教材として貴重であり、二代目隧道は、栃木県の道路用隧道としては現存する唯一の煉瓦隧道でもある。地元では、初代および二代目隧道を地域づくりに活用したいという機運もあり、今回の選奨土木遺産の認定は、その大きな弾みになると思われる。